

2024年度

実施効果報告レポート

【事業者名】

株式会社すららネット

【サービス名】

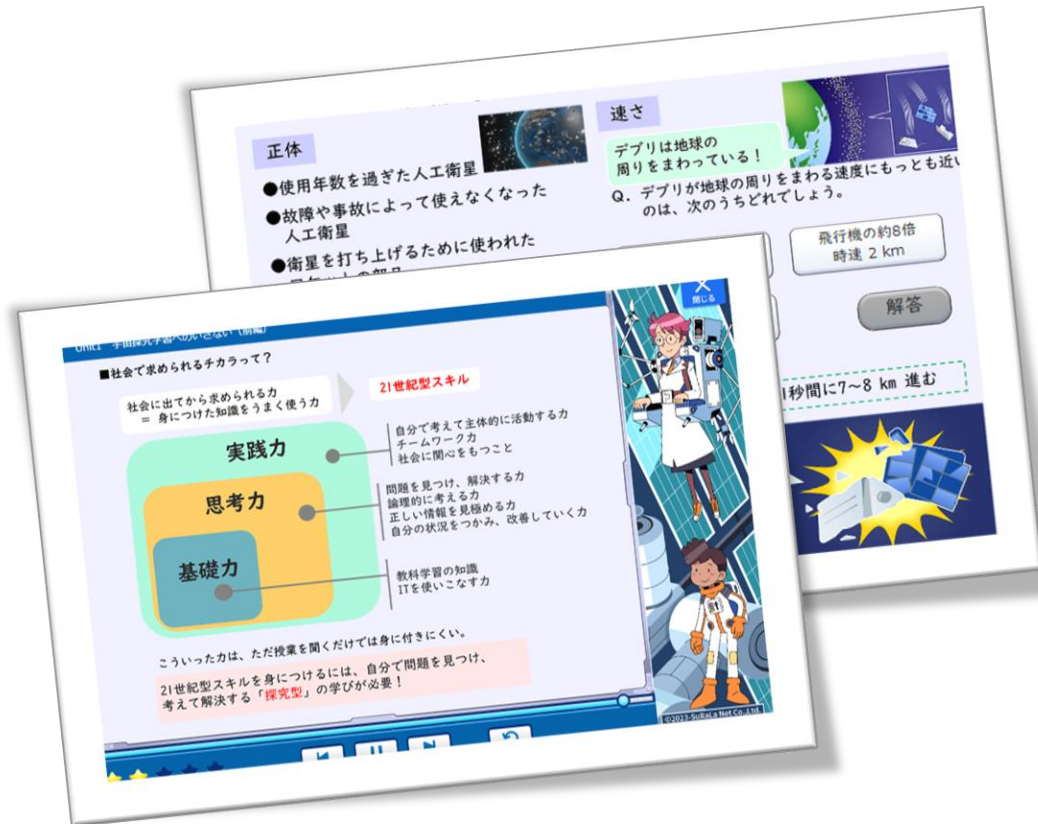
1. すらら
2. すららドリル
3. すららにほんご
4. すららサテライザー

【オプション名】

1. すららサポート
2. すららドリルサポート
3. すららにほんごサポート
4. すららサテライザーサポート

【支援項目】

1. 授業、授業準備、成績処理
2. 授業準備、成績処理、生徒指導(集団)
3. 授業、授業準備、成績処理
4. 授業、授業準備、成績処理



すらら **すららドリル**
すらら ☆ にほんご
Surala Satellyzer

2025年1月

学校活動支援サービスの概要

すららネットは教員しかできない学びを拡充し、社会で生き抜く力の土台作りをサポートしております。



「知識及び技能」



誰一人取り残さない学びを実現するための「**レクチャー＋AI機能搭載**」教材です。
個別最適な学びを通じて、生徒の学習の効率化と先生方の**業務軽減**に繋がるサポートをしています。

すらら＊にほんご

「**日本語能力**」を学ぶコンテンツです。
留学生などに活用いただいております。

「思考力、判断力、表現力」、学びに向かう力など

Surala Satellyzer

学習活動を行っていく中で「**探究基礎スキルを自然に、確実に定着できる教材**」です。
先生も、**授業の事前準備の手間を省き**、評価軸や評価方法の統一、探究学習で習得させるスキルの認識合わせができるような変化が期待できます。

学校活動支援サービスの概要

すらすらドリル

- Point1 20万問以上の問題の中から、児童生徒一人ひとりの理解度に合った演習問題を出題
- Point2 問題が解けない根本的な原因を自動で見つけ、インタラクティブなレクチャーで解決
- Point3 単元ごと、学年ごとなど、目的に合わせて活用できるテスト機能を搭載
- Point4 課題の取り組み状況、つまずき単元など、児童生徒の学習状況を管理画面で把握可能

<コンテンツのイメージ>



インタラクティブに進むアニメーションによるレクチャー画面の例

難易度コントロールやつまずき分析機能を備えたドリル・テスト画面の例

単元ごとの正答率や児童生徒の解答内容を確認できる管理画面の例

Surala Satellyzer

- Point1 人工衛星のスペシャリスト監修 ストーリーをなぞってゲーム感覚で進めるコンテンツ
- Point2 専用ワークシートで探究を進めるにあたって核となる探究の基礎スキルを伸ばせる
- Point3 指導マニュアル完備で、準備負担が少なく一定の質の授業ができる

<コンテンツのイメージ>



アニメーションと音声による5分前後の基礎知識の説明の例

思考やアイデアを発展、整理させるためのワークシートの例

「授業準備の負担」を大きく軽減する指導マニュアル

すらら☆にほんご

- Point1 JPLTのN5、N4と初心者がゼロから学べる
- Point2 問題が解けない根本的な原因を自動で見つけ、インタラクティブなレクチャーで解決
- Point3 多言語対応で、母語ヘルプ付きで学習可能
- Point4 課題の取り組み状況、つまずき単元など、児童生徒の学習状況を管理画面で把握可能

<コンテンツのイメージ>



インタラクティブに進むアニメーションによるレクチャー画面の例

ビジュアルと音で正しい日本語の発音を学べるアニメーションによるレクチャーの例

苦手なスキルをAIにより複合的に診断するドリル例

33の学校等設置者／学校等教育機関、総学校数101に対して導入を実施

学校等設置者	種別	すらら	すらら ドリル	Surala Satellyzer	すらら にほんご	申請学校数
ふじみ野市教育委員会	公立		13			13
みやこ町教育委員会	公立		6			6
宇治市教育委員会	公立		2			2
宇和島市教育委員会	公立		33			33
越前市教育委員会	公立		4			4
苅田町教育委員会	公立		1			1
高浜町教育委員会	公立	6				6
青森市教育委員会	公立		1	1		1
大山崎町教育委員会	公立		3			3
中城村教育委員会	公立		1			1
長万部町教育委員会	公立	1	1	1		1
北中城村教育委員会	公立		2			2
愛知県教育委員会	公立	1		1		1
茨城県教育委員会	公立	1		1		2
岡山県教育委員会	公立			1		1
沖縄県教育委員会	公立	1				1
広島県教育委員会	公立	1		1		2
千葉県教育委員会	公立				1	1
大阪府教育委員会	公立	1		1		1
長野県教育委員会	公立			2		2
島根県教育委員会	公立			1		1
東京都教育委員会	公立	2				2
徳島県教育委員会	公立			1	1	1
栃木県教育委員会	公立	1				1
福井県教育委員会	公立	1		1	1	1
福岡県教育委員会	公立	1		1		1
兵庫県教育委員会	公立	2		2		2
北海道教育委員会	公立	2		2		2
学校法人安部学院	私立	1				1
学校法人共育の森学園	私立	1				1
学校法人山口県桜ヶ丘学園	私立	1				1
学校法人静岡雙葉学園	私立	2				2
学校法人明泉学園	私立	1			1	1
合計		27	67	17	4	101



個別指導の負担

学力差等、多様な生徒に対する指導を行う上で、個別指導が余儀なくされるケースが増加。放課後の個別指導やプリントの個別化などを進めるための工数が課題となる。

- 個別最適化された教材を提供することで、個々の学力に応じた学習機会の提供と懇切丁寧な授業の仕組みを取り入れることが可能。放課後や家庭での自立学習を支援することで、教員の立会いや直接指導の負担を緩和します。

テスト等の作問・採点・印刷等の業務負担

自由進度学習や定期テストの廃止等が進み、代替としての、単元テストの実施が増加。一方で、そこに関わる教員には、作問、採点、印刷等の業務時間が増えており、教員の働き方の課題となっている。

- 単元を自由に選び、作問不要・自動採点される小テストの作成が可能です。ペーパーレスへの移行と作問採点の自動化が実現でき、教員の負担を軽減することができます。

学習状況・評価データの可視化
入力等の業務負担

宿題や小テストの結果等、従来の紙の実施の場合は、回収後に、校務システムへの入力するなどの工数が発生する。

- 宿題の提出状況や小テストの結果は、システムに記録されるため、実施状況を個別にチェックすることなく、校務システム等へ入れ込むことが可能です。

Surala Satellyzer

探究授業の準備運営の負担

各学校オリジナルの探究授業を作るケースが増え、初めて担当する教員には、関連者との連絡調整や授業準備等の事前の業務負担が大きい。

- 生徒への説明を行う動画と指導マニュアルにより、教員の授業設計、準備の時間を削減することが可能です。

探究の授業設計の負担

探究について、運用のみならず、授業の設計を含め、タスクとなってしまうケースが見受けられるが、通常校務に授業の設計が重なり、教員の負担となってしまう。

- 可変性の高い最大26コマの授業プログラムがあり、組み合わせにより、簡易にコマ数に応じた授業設計が可能です。

生徒の興味喚起のための工夫等の準備負担

探究の授業が各教員の専科と異なる場合、生徒の興味関心を引き付けるための工夫などの準備の時間を要する。

- 宇宙・人工衛星の専門家監修のコンテンツと、ゲーミフィケーションを活用したAIドリルにより、生徒にとってわかりやすく、楽しみながら学べる授業を運営ができる仕組みとなっている。

すらら✿にほんご

指導する教員の不足

22年時点で44%の自治体において、外国籍が母語の児童を抱え、日本語が必要な生徒児童の数は増加しているが、教えられる人材は横ばいで不足している。

- ・レクチャー付きのICTを利用し、0ベースで個別に学べるため、日本語が専門ではない教員による日本語指導を可能とすることで本課題の解決を支援します。

学習者の母語への対応

日本語が必要な生徒児童の国籍が多岐にわたるため、対応するためのマンパワーを確保できていない。

- ・多言語に対応しているため、こうした状況下で、個々の生徒に寄り添った指導の実現を支援します。

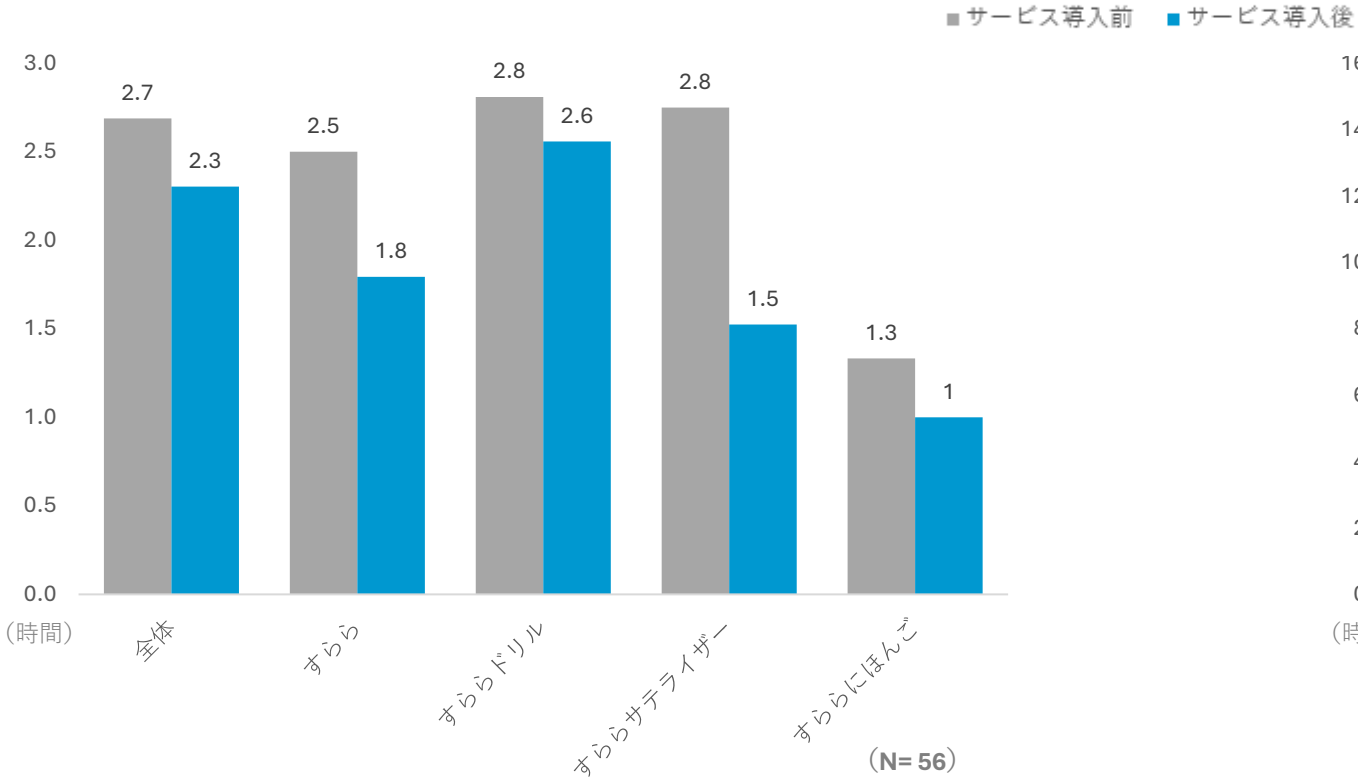
高校生の学習指導対応

技能実習生の急増に伴い、家族と共に高校などから来日し、授業を受ける生徒がいるが、専門団体は少なく、「特別な教育課程」の適用も黎明期でやはり人材確保の課題がある。

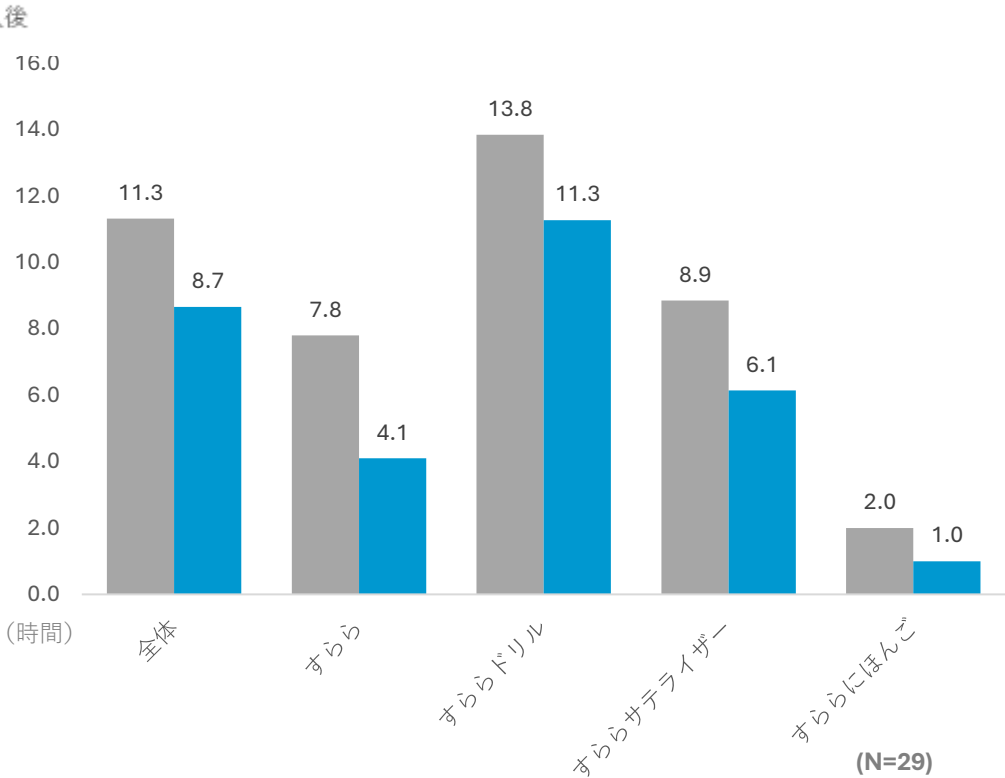
- ・少ない人材での支援が可能であるとともに、ICT機器を利用することでオンラインでの学習もできるため、複数校の生徒をオンラインで指導できる体制づくりも支援します

導入サービスに係る導入前後の平均業務時間

日単位の業務時間の変化



月単位の業務時間の変化

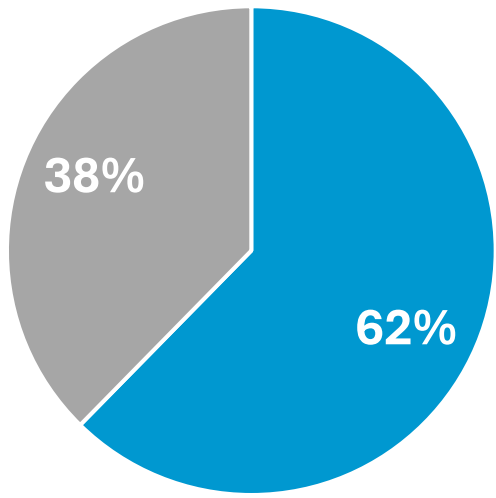


すべてのサービスにおいて業務の軽減を実感。
平均すると日単位では約0.4時間程度、月単位では2.6時間程度の業務の軽減となった。

※日単位の業務と捉えて回答した学校は日単位に、月単位の業務と捉えて回答した学校は月単位に分類。また、年単位の業務と捉えて回答した学校は12で割り月単位の時間へと換算しています。

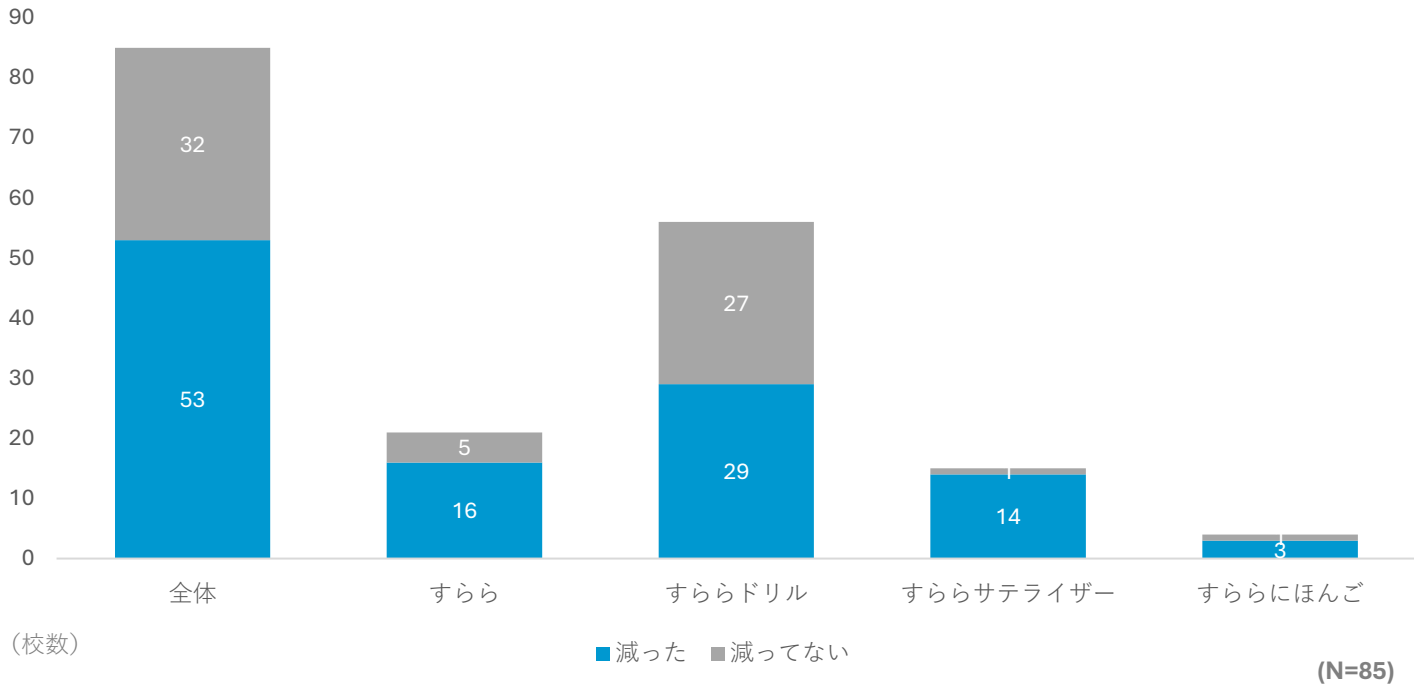
導入したサービスに係る業務について減少したと答えた学校の割合と学校数

導入サービスに係る業務が減少したと回答した割合



■減った ■減ってない

各サービスに係る業務について減少したと答えた学校数



業務減少の実感がある学校は全体では62%。高校を対象とする「すらら」では76%。
探究（すららサテライザー）95%・日本語（すららにほんご）75%と
特化型のコンテンツでは「減った」と答える学校が多いという傾向がみられた。

「導入されたサービスに係る業務時間が減ったか」というアンケートに対して「いいえ」の回答をした学校においては、

「すでにアプリの利用を行っていたため、勤務時間の自体にはあまり変化がなかった」

「既存アプリからの切り替えでまだ試験的導入であり、まだ効果は見られないが、試験的運用期間が延長置できたら、もう少し検証ができると考える。」

といった、すでに他教材を導入してたケースが目立ったほか、まだ習熟していないため、効果が実感できていない、
という意見が見受けられた。また、

「AI教材で生徒一人ひとりのニーズにあった学習は進めやすくなったが、学内総勤務時間の変化は感じられない。」

「今まで時間が確保できず取り組めずにいた“個に応じた基礎学力補充”に向けての取り組みを始めることを可能にしてくれた。システムが学習支援を効率化してくれたという表現が適当である。」

といったように、指導の充実等、勤務時間の減少ではない効果をあげている学校が見られた。



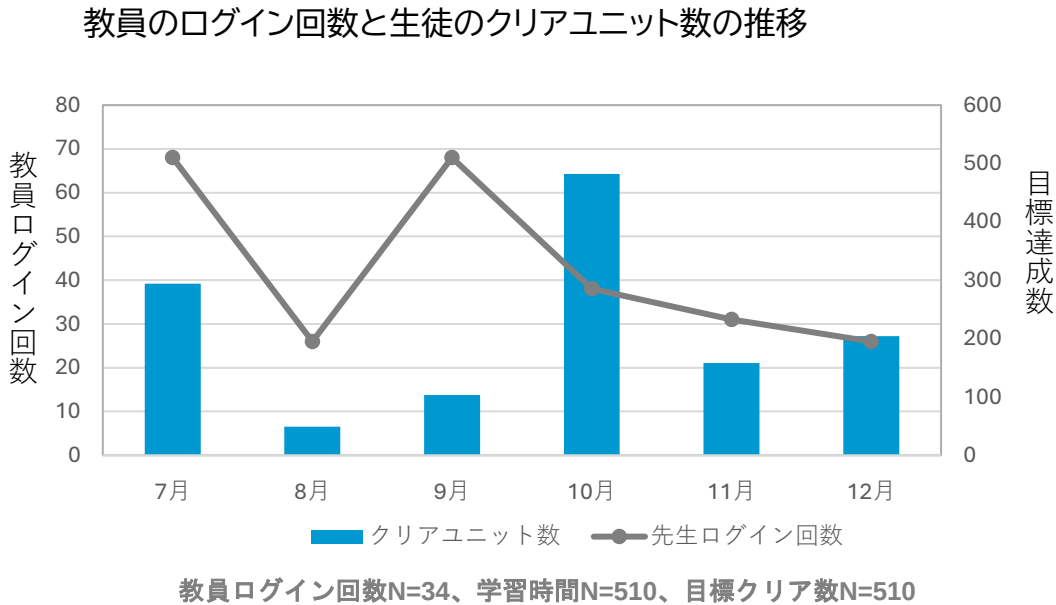
「授業準備が生徒の意欲の変化につながる実感をもてるようになった。」（理科・数学教員）

学校名： 愛知県立城北つばさ高等学校
導入目的： 学力・日本語レベルが多様な
個々に合わせた指導を通して義務教育範囲を身に着けさせる
実施シーン： <数学> 習熟度別授業にて中学範囲を実施
<理科> 授業内で演習として活用
〇〇〇
成果： 授業準備の負担軽減。
個別最適な学びの実現。教員の仕事の学習成果への効力実感。
生徒の学習意欲の向上。教えあいスタイルの実践。

Q1、業務の負担軽減につながっていますか？

A1 基礎学力の補強が必要だと感じた際に、今までであればイチからプリントを作る必要がありましたが「すらら」であれば手軽に配信できるので、負担軽減につながりました。課題が終わった生徒には追加課題をその場で配信することができます。苦手な単元がある生徒には学習すべき単元を伝えるだけでなくその箇所を課題として配信できます。今まで授業中に実現できなかった個別学習ができるようになりました。業務の負担軽減だけでなく、今までのプリント学習に比べて授業中に生徒が積極的に勉強するようになり、準備したことが生徒の学習に結びつく実感を持てることがうれしいです。

学校の特徴：
2017年新設。昼間定時制・総合学科の高校。不登校経験者、外国籍の生徒も多数。昼間部の普通科では、1日4時間の授業に加えて、午後の「選択の時間」に基礎科目や発展科目、実用的な科目など多様な科目を履修できる。多様な選択科目を用意しており、希望する進路や興味・関心に合わせて学習内容を選択できる。

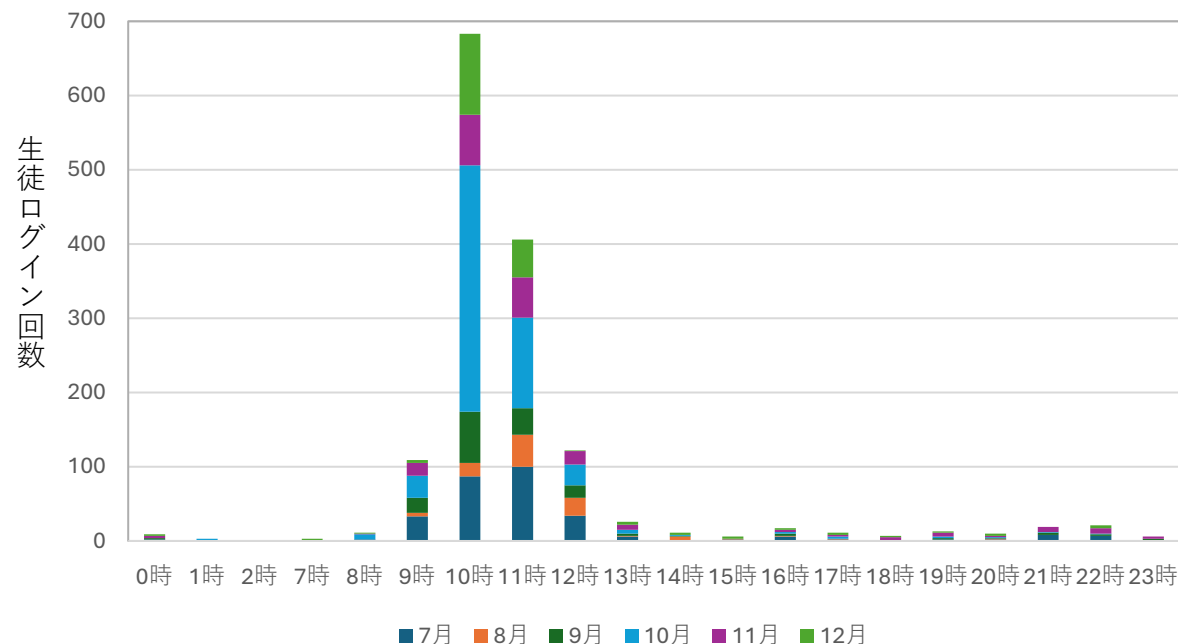


スタート時や・休み明けにログインを行い、生徒の学習状況などを確認している。以降、ログイン回数を減らしても学習量が下がっていない。珍しさによる一過性ではなく、良い意味での教員・生徒の慣れによる更なる効率性の向上が期待できる。

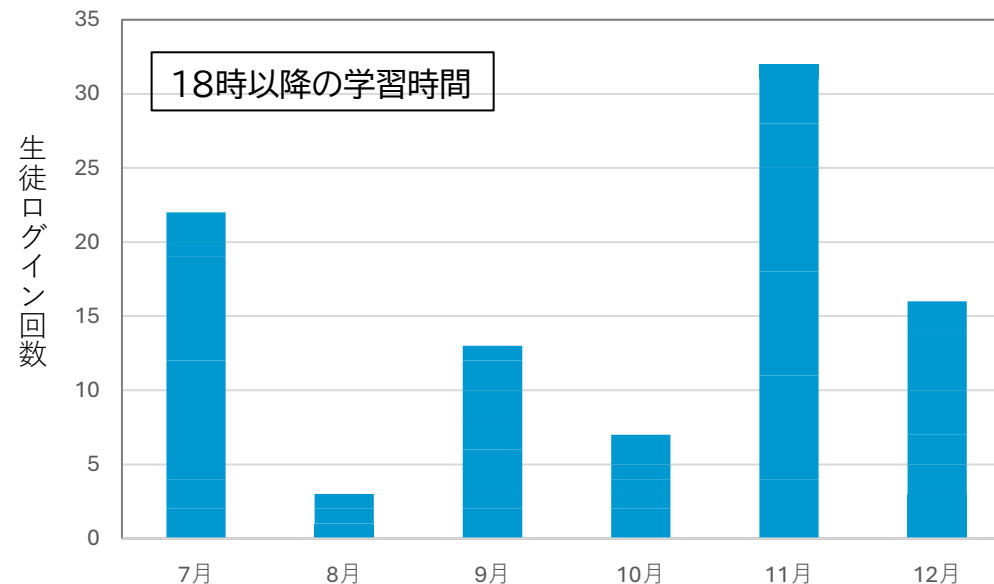
Q2、生徒の学習意欲や姿勢に変化はありましたか？

A2 ・プリント学習だと配った直後に机に突っ伏してしまっていた生徒が、集中して勉強に取り組むようになりました。配信した課題以外の単元を自主的に学習する生徒も出てきました。演習時間にクラス内での「教えあい」を取り入れることで黙々と学習するだけでなく対話も生まれました。端末やICT教材を活用することによって、良い意味で勉強と感じず、取り組みやすいのだと考えています。

時間・月別生徒のログイン回数の推移



授業外のログイン回数の推移



授業中以外にも放課後などの時間に学習している生徒の様子が見えます。

Q3、今後さらに実施していきたいことについて教えてください

A3 今年度は授業内での活用が中心だったので、学習習慣の定着に向けて、宿題などの自主学習での活用を進めていきたいです。理科では座学の時間を圧縮できるので、実験などに時間を増やしたいと考えています。



教務指導的な側面において、働き方改革・教員の負担軽減に効果や今後の可能性が実感されました

教職員が考える「すららドリル」を活用することのメリット

「問題作成に関わる業務を軽減することができる」



「テスト等の作問・採点・印刷等の業務負担」の軽減に貢献

教員が教材や問題を作成する時間を削減し、他の業務に時間を割くことができることを示唆しています。
また、児童生徒がタブレット上で問題に取り組むことで、採点や進捗管理などの業務を効率化できる可能性があります。

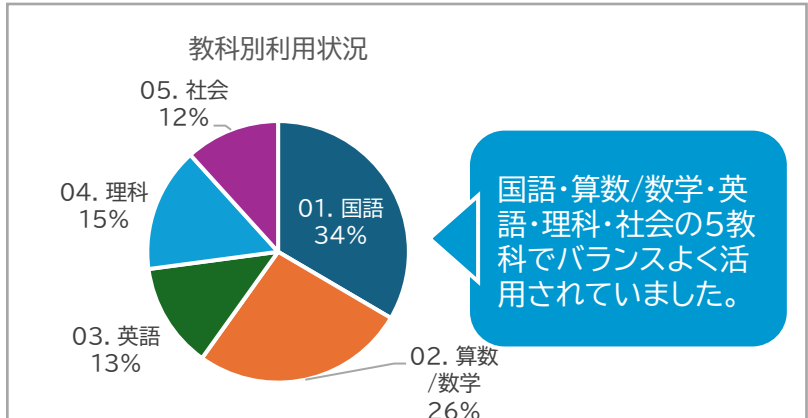
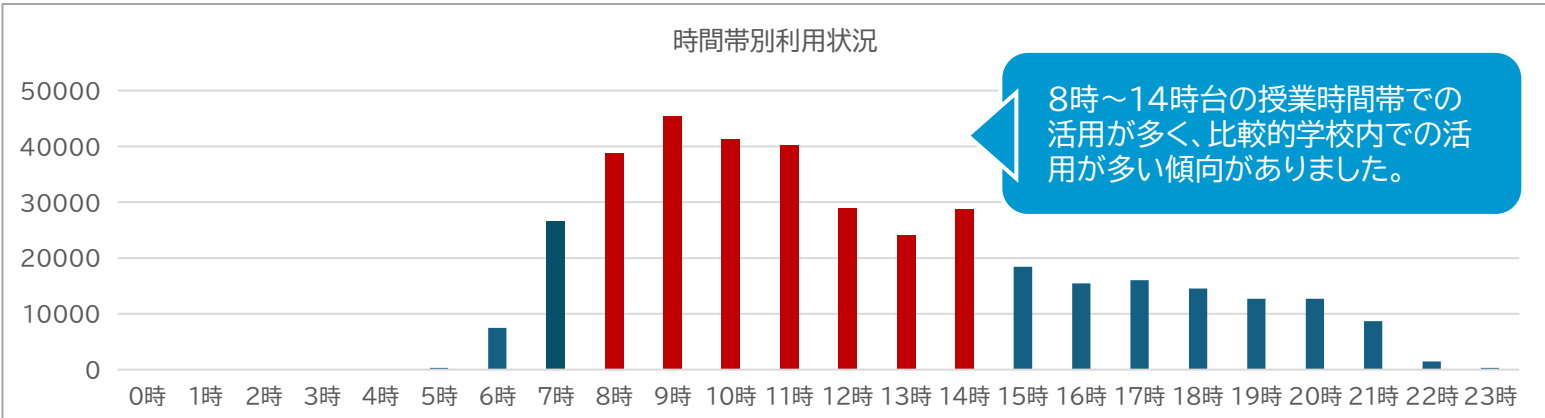
「タブレットを使って、様々な問題に取り組ませることができる」

「隙間時間の学習支援に活用できる」



「個別指導の負担」の軽減に貢献

児童生徒がタブレット上で問題に取り組むことで、教員の拘束時間を減らすことができます。
また、教員が各児童生徒の個別の習熟度に応じた教材や問題を作成する時間を削減し、他の業務に時間を割くことができることを示唆しています。



p.5にて列挙した「学習状況・評価データの可視化入力等の業務負担」の軽減については、期待された成果の創出には至りませんでした。

Surala Satellyzer

「授業準備の時間が大幅に低下し、授業実施も楽になった」
(高校理科教員)

学校名：三刀屋高等学校 掛合分校
導入目的：授業準備、授業実施における教員負担の軽減
実施シーン：探究基礎(学校設定科目)
成果：業務にかかる時間が半減(月12時間→月6時間)
グループワークや発表の機会増加。

Q1、業務の負担軽減につながっていますか？

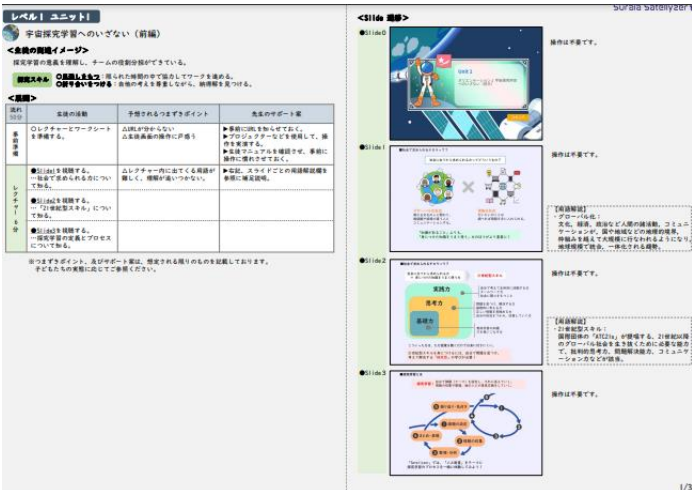
A1、今までは探究基礎の授業では特定の教科書を用いて実施していました。教科書の内容に合わせてプリントを作成したり、教科書の内容どうまとめて授業展開するかという準備に時間がかかっていました。サテライザーは指導マニュアルやワークシートが搭載されており、展開をつかみやすく形式立てて進めることができ授業設計が容易になり、授業準備が楽になりました。また評価についてもルーブリックがあるため、評価をする際の時間短縮につながりました。

Q2、生徒の学習意欲や姿勢に変化はありましたか？

A2、以前は教科書の内容に合わせて進めると個人の調べ学習が多くなっておりグループワークの機会が少なかったのですが、サテライザーでは各回でグループワークの時間が設けられているため、話し合う機会が増えました。またサテライザーでの役割分担(発表者、タイムキーパー等)を各授業持ち回りで実施することで、人前に出ることが苦手な子でも発表の機会を設けることができました。その結果総合的な探究の時間においてもコミュニケーションがとりやすくなりました。

学校の特徴：
生徒数70名程度。地域に根付いた学びを特徴としており、地域との連携も活発。「探究基礎」「地域創造」「里山の生態」を活用し、課題の発見と解決に必要な知識や技能を身につけ、主体的・協働的に課題解決を図る態度を養う。地元企業インターンシップへの参加や、地域の組合と協働しながら農産物の販売戦略、広報等を実施している。

指導マニュアル



The screenshot displays the Surala Satellyzer interface. On the left, there's a sidebar with navigation options like 'レベル1 ユニット1' and '字彙探究学習へのいざない(前編)'. The main area shows a lesson plan for '探究基礎' (Exploration Foundation) with a table of activities and their goals. On the right, there's a section titled '評価ルーブリック' (Evaluation Rubric) with a table of criteria and evaluation levels (C, D).

評価: C	評価: D
問いに関する詳しい知識を べることができた。	今回はやらなかった／でき なかった。
状況の取り組みで課題 なっていることから、	今回はやらなかった／でき なかった。
分と他者の考えを比較し 、ちがいを理解できた。	今回はやらなかった／でき なかった。
1/2分の考えを言葉にして伝 えることができた。	今回はやらなかった／でき なかった。
他者の考えを理解しよ うと質問しながら聞く	今回はやらなかった／でき なかった。
ワークの目的を理解し て、限られた時間で達成	今回はやらなかった／でき なかった。
必要な情報が何かを理 解して、適切な方法で伝	今回はやらなかった／でき なかった。
集めた情報を正確に理 解し、項目に分けて整	今回はやらなかった／でき なかった。
グループで決めた課題や 目標に対して達成意欲	今回はやらなかった／でき なかった。
目的と結果を比較して グループワークのプロセ	今回はやらなかった／でき なかった。

サービス導入にあたっての課題とその改善策

①一過性の教員の負担増加

新システムの導入による、教員が操作方法を覚えたり、生徒の進捗状況を把握したりする手間の増加。質問対応など、AIドリル・コンテンツだけでは完結しない業務発生により、結果的に生じる負担の増加。そうした躓きから利用への抵抗感が発生する場合がある。

改善に向けて

導入前研修の徹底
教員向けの操作研修や、サービスコンテンツの効果的な活用方法に関する研修を十分な時間をかけて実施する。

サポート体制の充実
ヘルプデスクの設置や、FAQの作成など、活用開始直後など、適切なタイミングでの情報発信など、教員が疑問点をすぐに解決できる環境を整える。

業務分担の検討
サービスコンテンツを活用した学習指導を、教員だけでなく、ICT支援員などとも協力して行う体制を構築する。※自治体によって教員研修にICT支援員も参加簡単な操作説明はICT支援員が務められた事例もあり

導入後のサポート
サービスコンテンツの活用事例やノウハウを教員間で共有する機会を設け、教員同士が協力して課題解決に取り組めるようにする。(教科パンフレットの作成・提供等)

②予算確保の課題

補助金での活用後の導入検討時、財源確保が難航する場合がある。

改善に向けて

活用後の利点の共有
活用により享受した利点と成果を明確にし、共有する。

支出の見直し
ICT教材への転用可能なもの見直しをすることで、支出の単純な増加を抑える。
(補助金でICT教材の試用により、ICTの活用可能範囲を判断が容易になる。)

教育に**変革**を、 子供たちに**生きる力**を

世の中には、学力や所得、地域の格差などによって十分な教育を受けることができない子どもたちがいます。

私たちはそうした子どもたちにも、ひとりひとりに合った新しい学習体験を届けます。

この学習体験を通じて、子どもたちは、「大人になっても役に立つ真の学力」と「努力をすれば結果が出るという自信」を身につけることができます。私たちはこれらを実現するために、新しい学びの形を、学校や塾、その他の教育機関と共に築いていきます。

【問い合わせ窓口】

株式会社すららネット 学校チーム

電話番号: 03-5283-5158

メールアドレス: gakkou@surala.jp

探究的学習関

用促 事業費補助

効果報告レポ

- 株式会社すららネットの前身会社設立

- 中学生版リリース 「すらら」だけで教える直営塾を開校

- 高校生版が完成。学習塾・私立学校に徐々に導入が広がる。



E-Learning Awards 2012フォーラム
「日本e-Learning大賞 文部科学大臣賞」を受賞



日本ベンチャービジネス大賞にて「社会課題解決賞」を受賞



東証マザーズに上場



J-Startup企業に認定



経産省「未来の教室実証」モデル事業に採択

- 「未来の教室」海外展開支援等事業採択
- 経産省EdTech導入補助金採択



「第21回 日本 e-Learning 大賞」
「日本語教育特別部門賞」を受賞

国内学校 **1,200**校
国内学習塾 1200校 海外55校
約**36万**人の児童生徒が利用



単位：千円

	2024年3Q
売上高	1,458,658
売上総利益	938,826
売上総利益率	64.4%
営業利益	180,864
営業利益率	12.3%
経常利益	184,4962

損益計算書より抜粋

マーケット	項目	2024年3Q
塾	導入校数	1,197
	ID数	18,986
学校	導入校数	1,190
	(内、公立導入校数)	896
	ID課金数 (※)	219,204
	(内、公立ID数)	156,765
BtoC	ID数	3,939
海外	導入校数	79
	ID数	4,672